

日本 ハンザキ研 究所 ニュ - ス 2008(11) : 通巻 No.34



発行 2008年10月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel / Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

第5回オオサンショウウオの会・朝来大会

10月4日・5日の両日に実施された。例年の会では、初日の午後に総会と研究・事例などの発表を行い、夜間の河川観察会と翌日午前中のフィールドや施設の視察で終わっていた。今回の初日午前中は一般市民を主対象としたシンポジウムを開催した。それは、地域の方々へのハンザキに対する理解と関心を深めてもらいたいということや、各地におけるハンザキとのかかわりの事例を紹介することが目的だった。地元の多くの方はあまりにも身近な生き物として、その価値を考えたことの無い場合がある。私たちが空気の大切さを考えることがほとんど無いのと同じことだろう。

そういう意味で、市民の参加がどの程度になるのかが気になっていたが、150名ほどの参加がありまずまずであった。ただ、午後からの発表会に出席される方々の顔も多く見えて私の午前中の講演「兵庫県のオオサンショウウオ」と午後「兵庫県のオオサンショウウオと河川工事」と言う2題のニュアンスの差を明らかにしなければいけないなと考えた。午前の話は出来るだけ平明に、貴重な生き物であることを強調することに努めたが、どの程度訴えることが出来ただろうか。午後の総会などの間に、ハンザキ研へ足を運んでくれた人が十数名あったということで、ある程度の成果はあったかと思っている。一人でも多くの市民にこれからもハンザキをハンザキ研の存在を知ってもらうことに努めて行きたいと考えている。

総会では、第6回を鳥取県日南町が引き受けてくれることを確認し、第7回の候補を岡山県の真庭市ということで持ち帰っていただきました。後日、真庭市教育委員会へ出向き、概略の説明をして検討を依頼してきました。開催地事務局への負担を最低限に抑えることで実施してきたので、引き受けていただけるでしょう。何しろ真庭市湯原町はハンザキ研究の発祥の地とも言えるところです。明治時代に東京帝国大学の石川千代松先生が調査研究した頃のハンザキの標本が残されているのです。また、日本唯一の「オオサンショウウオ保護センター」が存在することも注目されますが、共に今一大切にされていないと言う点もこの機会に改善していただければと付け加えておきました。

総会に続いて私の講演では、兵庫県におけるハンザキと河川工事の先進的な事例の幾つかを紹介しました。まだまだ試行錯誤的な状況にあるが、今は挑戦していく時であること、座視していればハンザキたちの棲家が無くなり、繁殖の場が不足していきます。どんなに

小さな工事に際しても、環境配慮を実施してもらうこと、生き物の立場の人間からの提案を土木のプロの方々が門前払いすることなくクリアしてほしいと訴えておきました。会場には土木関係者も多数参加してくれていたのです。ハンザキの関係者もこれらの事例や考え方を地元へ持ち帰ってトライしてくれば幸いです。

研究・事例発表は 13 題ありそれぞれ活発な質疑が行われました。ハンザキに直接関係なさそうな「ハンザキ研周辺の植生とシカの食害」と言う発表がありましたが、生態系は一つの生き物だけでは成り立たないものであり、水中生活者のハンザキにも陸上の植物の変化はいずれ影響を及ぼすものであり、これからも継続した調査研究が求められることです。京大松井教授の「賀茂川ハンザキ」の現状は早急に対策が必要なのに地元自治体の反応が鈍いことに警鐘を鳴らすものでした。また、ハンザキ研の柿木研究員の「出石川のハンザキとツボカビ症」もツボカビの研究の遅れを如実に示したもので、今後の専門家の対応が注目されます。他の発表もいずれもハンザキのおかれている状況や生態の解明に結びつくものばかりで、お互いの情報の共有によりハンザキの保護保全に役立つものばかりでした。

心配されていた懇親会の席も狭いながらも 2 か所に分かれずに済みほっとしました。何しろ 100 名もの会場の確保が難しい所でしたので、少々詰め込みでの会になりましたが、その分会話の方も弾んでいたようです。終了後は民宿など 5 か所に分宿することになり、5 人のリーダーを指名して、宿周辺の河川に入ってもらいました。結果は 31 個体の測定が出来、貴重なデータをいただきました。一方で、ハンザキ研も 24 時までの開放によって、夜間の保護センターの活発なハンザキの姿を、特に水面に浮いてフワッと泳ぐハンザキに皆さん見とれていました。まったく、私にしても昨年 11 月に収容されてから夜間の観察でこの姿を見て驚いていたのです。河川における調査では決してそんな姿は見かけません。長く調査研究をしている広島市安佐動物公園のメンバーも初めて見たと言うほどでした。

翌日はまずハンザキ研を見ていただきましたが、ハンザキ橋下の黒主が歓迎の姿を見せたり、河川ステーションの「はんざきブロック」の覗き穴から、中にいたハンザキを観察することが出来ました。このブロックの設計に携わった野村さんが冷たい水にビデオカメラを突っ込んで夢中で撮影していたのは印象に残りました。次いで、生野ダム下流の工事現場を視察し県・八鹿土木事務所の職員から説明をしていただきました。

日程は、生野鉱山博物館で昼食後終了しましたが、オプションとして午後は豊岡市の出石川の工事現場の視察とコウノトリの郷公園の見学を行いました。70 数名もの参加があり喜んでいただけたようです。やっぱりコウノトリは優雅で、昼間も見ることができていいなと思いました。ただ、数年前に見学した時に比べると混雑（鳥が）してきた感があったので今後の課題が見えているように思えました。

かくして、まるまる 2 日間の予定が無事に終了しましたが、充実した 2 日間であったと思います。これは、今回に限ったことではなく今までの 4 回の会でも同様で、終わった後の充実感に大変満足しています。これも多くの皆様の熱い思いが結集してのことと考えていますが、ハンザキの保護につながるものと心強く思っています。来年は鳥取県です！！

オオサンショウウオの会における夜間ハンザキ観察会の結果

オオサンショウウオの会では毎回、開催地の河川における夜間観察会を実施していますが、百名近い人数が一斉に川へ入るのは大変です。そこで今回は、宿が 5 か所の民宿などになっているのを幸いに、分かれての観察会を行うこととしました。知らない川へいきなり入るのは危険ですので、この川に経験のある 5 人のリーダーを指名して実施しました。下流側から大沼チーム（当 NPO 副理事長）、東口チーム（当 NPO 会員）、姫路市立水族館チーム、田口チーム（同 研究員）、柿木チーム（当法人 理事）です。

各チームでは、足場の良いところで陸上からの見学、水中へ入った実践的な調査とそれぞれの対応で、2～12 個体の採捕と計測と言う結果の報告を受けました。ただし、田口班は、若い学生さんたちの頑張りで、24 時まで川から上がったと言う報告が無く、翌朝に 12 個体のチェックが出来たと言う報告を受けました。合計で 31 個体とまだ変態前の 10 卵台の幼生も数匹見つかったそうです。

この数は、通常の調査における最多の記録には及びませんが、多い方になります。平均的に、一夜で 10 個体ほどなのですが、30 個体の計測はそう多くはありません。一晩中歩いて 34 個体が最多記録でしたが、1 回だけ 60 個体を記録したことがあります。今回の大沼班が一部だけ歩いた水域でのことでした。ここは、調査を始めた当初のホームグラウンドです。水族館の班が入った水域は、人工産卵巣穴の設置された所で、繁殖期前後にはある程度の個体が見つかりますが、それ以外はあまり姿を見かけません。田口班が入った川はヘアピンカーブの 9 連続と言う難所です。数年前に一人で入って明け方までかかったり、雪の夜遭難しかけた場所です。24 時を過ぎても連絡が無いので心配しましたが、若さですね、12 個体を計測し、3 個体に逃げられたそうです。

当日の奮闘していただいた結果をここに示します。

個体番号	M.チップ	全長 mm	体重 kg	前回からの期間	追跡期間	採捕回数
大沼班 (A 区) 魚ヶ滝荘泊						
1006	0646 - 804A	900	5.30	2 年 3 か月	4 年 3 か月	3
777	0125 - DE85	925	3.95	2 年 7 か月	9 年 5 か月	4
1442	0646 - AA4F	575	1.00		新規登録	1
876	0646 - 8DCB	870	2.40	2 年 3 か月	4 年 3 か月	6
667	0126 - 1A00	800	2.80	1 年 4 か月	10 年 7 か月	10
886	0666 - D4AB	555	0.95	3 年 5 か月	4 年 1 か月	5
東口班 (B 区) 民宿せせらぎ荘泊						
687	063B - 5223	700	2.75	3 年 7 か月	10 年 7 か月	7
1139	0634 - C2DA	870	3.50	4 年 1 か月	4 年 6 か月	4
913	0646 - 4ACF	770	3.55	5 年 1 か月	6 年 4 か月	5
1086	063B - 04C2	730	2.95	4 年 1 か月	4 年 8 か月	5
1087	063B - 04C2	715	3.25	4 年	4 年 8 か月	6

1250	0646 - 8789	1010	6.25	3年7か月	4年3か月	4
姫水班 (C区) 民宿こうチャン泊						
1015	0666 - C794	760	3.65	1年	4年1か月	8
631	0125 - CBF3	700	2.85	3年	11年2か月	9
909	060D - A10F	495	0.90		3年2か月	2
861	060D - 95D7	575	1.80	1年	4年1か月	7
1449	0334 - 7447	330	0.23		新規登録	1
田口班 (H区) 生活改善センター泊 (食料・寝袋持参)						
984	063B - 8ED5	685	1.85	2年5か月	4年5か月	6
1443	0667 - 25DC	220	0.06		新規登録	1
1444	0664 - 2A9D	615	1.40		新規登録	1
905	0634 - B8EA	665	2.10	3年	4年5か月	4
1445	0666 - D314	570	1.20		新規登録	1
918	0666 - CAF7	640	1.40	2年5か月	4年2か月	6
1343	0666 - D408	545	1.00	4年1か月目の再捕		2
991	068B - 9635	620	1.55	2年5か月目の再捕		2
981	0646 - 4BFC	860	2.90	2年5か月	4年5か月	4
1446	066E - 1237	295	0.20		新規登録	1
717	060D A1B1	795	3.40	4年4か月	10年7か月	4
1447	066E - 24A4	325	0.26		新規登録	1
柿木班 (K区) 民宿やまびこ山荘泊						
925	0666 - 6DBC	770	4.09	11か月	4年2か月	9
1448	068B - 8091	530	1.24		新規登録	1

このようなデータの整理が出来ました。新規登録 8 個体は尾部左側面の斑紋をチェックしましたが、該当する写真登録個体は見つからず、1449 番までの登録となりました。これでマイクロチップ挿入数は 798 個体となりました。22 個体が再捕されましたが、ほとんどが数年間のブランク後のチェックで、今回では 10 年を越す追跡が出来たのは 3 個体です。その中で 667 は 780^{ミリ}から +20^{ミリ}、687 は 670^{ミリ}から +30^{ミリ}、717 は 790^{ミリ}から +5^{ミリ}と 3 個体共に誤差の範囲か?と思われる程度の全長の値でした。150^{センチ}になる生き物なのに、その半分くらいのサイズであって 10 年間もほとんど成長が見られないという現実、大変厳しい餌事情が見えてきます。

9 日後のことですが、日中に 667 が魚ヶ滝の水深 6^{メートル}の滝壺の底で体の半分くらいもある大アマゴの尾部に咬み付いて振り回されているシーンを、水中写真家の田口哲さんが撮影しました (写真 6 参照)。久しぶりの獲物に出会えたようですが結末は???



写真1 会場でのグッズ出張販売も盛況



写真2 生野ダム下の工事現場視察



写真3 ニジマスをくわえたハンザキに見入る高橋小児童



写真4 県指定史跡になるか円明寺庭園



写真5 円明寺コウホネの大群落



写真6 大アマゴに振り回されているハンザキ

ハンザキ研日誌

2008年10月

- 2日 豊岡市立高橋小学校・幼稚園全児童の遠足 54 名来所
 - 3日 オオサンショウウオの会の会場「マインホール」準備
 - 4日 第5回オオサンショウウオの会・約 150 名の参加
シンポジウム
総会・研究発表会・懇親会・夜間調査 5 地点で実施、34 個体を計測
ハンザキ研の夜間公開・24 時まで
 - 5日 同会 視察：日本ハンザキ研究所と市川竹原野工事現場
午後はオプションで出石川工事現場とコウノトリの郷公園見学
 - 11日 収容中のオオサンショウウオの健康診断実施
 - 12日 秋のトレッキング実施、10 名と旧・姫路工業大学ワンダーフォーゲル部OB会の
吉田・岡村リーダーと事務局 2 名参加
 - 17日 GS - 273 終了 (9月15日～)
 - 18日 旧・姫路工業大学 (現・兵庫県立大学) ワンゲル部OB会結成 50 周年記念で講演
 - 20日 GS 275 開始 (～11月21日・274 は 4 日に実施)
 - 21日 兵庫県文化財保護審議会・天然記念物部会現地調査で武田部会長ほか来所
朝来市和田山町の円明寺の庭園の審査
円明寺よりオオタニシ 4 個体受贈、またコウホネの大群落も
 - 22日 神戸の喜田啓史氏来所・NPO 会員に (元京大・白浜水族館の荒賀忠一先生と元
金沢大学の奥野良之助先生の高校時代の同級生、世の中の狭いことを感じました)
後日 10 万円の寄付を頂く
 - 23日 市川水系流域委員会最終回・兵庫県姫路総合庁舎にて
 - 24日 見学者 3 組 12 名あり
 - 25日 モンドリ月例定期調査
 - 31日 滋賀県立大学 (院) 馬場 孝さん実験カワニナのサンプリングに来所
とよなか市民環境会議アジェンダ 21 自然部会柿本氏など 9 名・視察に
-

ハンザキ所長のツブヤ記録

昨年の 10 月に三重県赤目で第 4 回のオオサンショウウオの会が終わってから、あっという間の 1 年であった。朝来大会も無事に終了したが、安堵感と充実感もありなんとなく疲れがドッと出た。身体的な面と精神的な部分もあり、しばらく頭の中がボーッとになっていた。しかし、のんびりしている暇は無く、講演や各種の委員会があったり、アンコ淵の産卵や孵化の確認のための潜水調査、モンドリ定期調査、カニ籠定期調査と続き、10 月も終了。

(この印刷物はセブン-イレブンみどりの基金の助成をうけて作成しています)